

月刊 しばうら

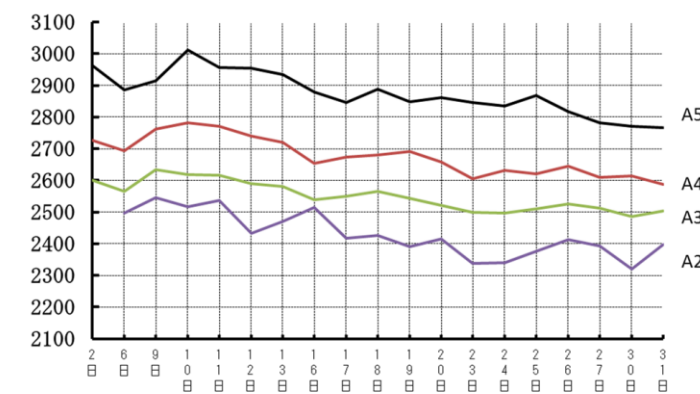
2016年6月号

大動物事業部

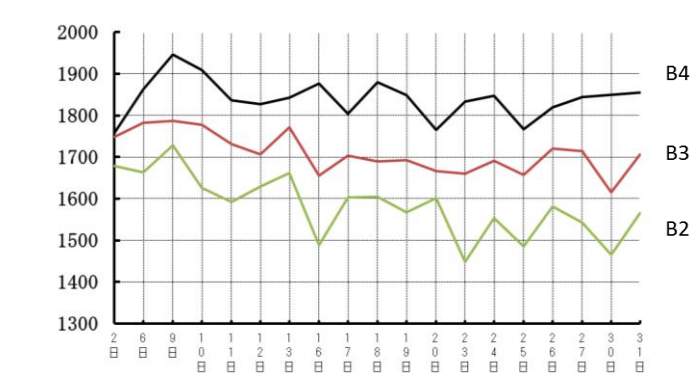
< 5月の相場動向 >

5月の牛枝肉相場は、和牛去勢 A5 が前月比 44 円安、同 A4 が 31 円安、同 A3 が 6 円安、同 A2 が 3 円安となった。連休明け直後は補充買いが集中し強気の枝肉相場となったが、中旬以降から月末に向けて末端需要の停滞などから若干下げの相場展開となった。交雑種も同様に弱もちあいの枝肉相場となった。

和牛去勢 日別相場表（5月）



交雑去勢 日別相場表（5月）



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,880 円	117.4%	98.5%
A4 2,685 円	117.4%	98.9%
A3 2,554 円	118.0%	99.8%
A2 2,434 円	121.8%	99.7%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,850 円	105.8%	100.6%
B3 1,709 円	102.1%	99.5%
B2 1,565 円	97.9%	98.9%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 1,226 円		106.1%
B2 1,090 円	91.5%	97.1%

< 6月の全国出荷頭数予測 >

農水省統計部が発表した 4月の食肉流通統計による全国と畜頭数は、前年同月比 5.4%減の 8万 6,811 頭となった。うち和牛は 7.9%減の 3万 7,326 頭、交雑種は 3.4%増の 1万 9,176 頭、乳用種は 7.3%減の 2万 9,417 頭となり、交雑種は 15年 3月以来 13ヵ月ぶりの増加となった。

農畜産業振興機構による 6月の出荷予測頭数は、全品種で前年割れとなり全体で前年比 5.1%減の 8万 5,000 頭と予測している。品種別にみると和牛は 6.2%減の 3万 5,000 頭、交雑種は 2.9%減の 1万 9,300 頭、乳用種は 4.4%減の 3万 800 頭としている。また、4月～9月の生産見込みの発表によると、全品種と畜頭数は合計では前年同月比約 2.8%減を見込んでおり、和牛は生産基盤の縮小に伴う出生頭数の減少により約 5%減、交雑種は酪農家における黒毛交配率の上昇により 4月頃から増加に転じ約 2%増、乳用種は離農などにより生乳生産基盤が縮小しているほか、黒毛交配率上昇の影響を受け約 3%減を見込んでいる。

東京食肉市場の 6月のと畜頭数は 7,600 頭を予定している。

< 6月の牛枝肉相場見通し >

大型連休期間中の牛肉需要は好調な荷動きとなったようだ。6月の枝肉相場は依然出荷頭数の減少傾向が継続しており、末端消費は入梅時期に向かって需要は落ち込み例年相場が下がる時期であるが、全般的には大きな下げもなくもちああいから弱もちあいの相場展開が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800～2,900	B4	1,750～1,850
A4	2,650～2,750	B3	1,600～1,700
A3	2,500～2,600	B2	1,500～1,600
A2	2,350～2,450		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,100		

< 6月の牛肉輸入量予測 >

財務省の貿易統計によると、4月の輸入牛肉通関量は、前年同月比 9.9%減の 5万 2,155 t と前年を下回った。前年の4月は、日豪 EPA による関税引下げなどで豪州産の数量増加もあったことから、1割の減少となった。前月比では、品薄だった前月に対し 1.6 万 t 増となり、連休需要に向けた手当て増もあり大量輸入となった。

チルドは豪州産が前途の理由で前年より減少しているが、今年に入り始めて 1 万 t を超え、また米国产も大幅に増加となったため 1年ぶりに 2 万 t 台の輸入量となった。フローゼンは前月から 1.2 万 t 増であり、前月から豪州産が 1 万 t 以上も増えていることから、新年度に入り未通関分が繰入れられたものとみられる。

農畜産業振興機構の予測による 6月の牛肉輸入数量は、前年比 3.4%減の 3万 7,800t と予測している。チルドは米国产の生産量回復に伴い輸入量の増加が見込まれる一方、豪州産は牛群再構築に伴う出荷頭数減で減少が見込まれ前年並みの 1万 7,300t と予測。フローゼンは前月同様に、前年の豪州産の通関繰延べにより数量が大幅に増加した反動に加えて、現地生産量の減少などから 5.9%減の 2万 500 t と前年同月を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		4月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	11,773	13,708	85.9%
	米国	8,377	5,794	144.6%
	その他	717	853	84.1%
	合計	20,867	20,355	102.5%
フローゼン	豪州	20,358	28,379	71.7%
	米国	8,483	7,161	118.5%
	その他	2,446	1,997	122.5%
	合計	31,287	37,537	83.3%

単位：t

出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、4月の全国と畜頭数は 135万 3,804 頭（前年同月比 99.9%）となり前年より減少した。また、4月分の豚肉通関実績は、総量で 7万 6,175 t（前年同月比 104.1%）と前年より上回った。うちチルドが 3万 966t（同 110.9%）と増加し、内訳は米国が 1万 8,157t（同 113.6%）、カナダは 1万 1,771t（同 111.8%）に増加、メキシコが 5,209t（同 73.3%）と減少。フローゼンは 4万 9,967t（同 99.9%）と前年より微減、デンマークが 1万 489t（同 107.7%）、米国が 4,750t（同 50.9%）、カナダが 3,322t（同 72.0%）であった。

< 5月の豚取引の推移 >

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	69,300	493	459	1,338
6日	78,000	511	474	1,239
9日	69,900	582	579	890
10日	70,600	585	552	1,066
11日	66,800	601	577	706
12日	71,100	609	580	662

上旬の全国と畜頭数は 1日あたり 7万 1,000 頭と前年を上回る頭数であった。当市場においては平均 980 頭と前年を下回る上場頭数であったが、これは今年のGWが暦の関係上、臨時と畜が一日もなかった結果と考えられる。連休中は比較的落ち着いた相場展開であったが、むしろ連休が明けてからは一気に上物価格が 600 円台に向かう動きを見せた。また、先月から相変わらずスソ物は中元ギフトの需要等で、チルド・フローゼンともに非常にタイトな状況であった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	68,600	601	582	973
16日	66,900	602	567	659
17日	68,800	610	586	1,074
18日	64,000	612	576	708
19日	67,600	624	600	809
20日	66,700	593	570	840

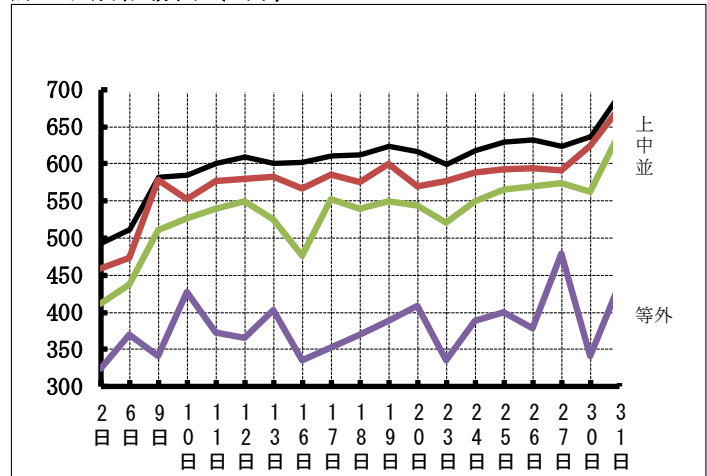
中旬の全国と畜頭数も前年を上回ったが、1日あたり 6万 5,000 頭と前年を上回るものの、7万頭を割り込んだ。当市場は平均 840 頭と前年を上回った。相場については上物価格 600 円前後、中物 500 円台後半で、内容的には強保ち合いで落ち着いたように見える展開であった。しかし部分肉においてはスソ物中心であった相場が、ここにきて全てのパーツで上昇する動きをみせた。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	65,300	599	577	735
24日	67,300	618	588	1,001
25日	64,400	630	592	639
26日	66,700	632	594	690
27日	66,100	624	592	916
30日	63,500	636	625	634
31日	64,600	693	675	653

下旬の全国と畜頭数は、平均 6万 5,000 頭と前年を上回り、当市頭数は 750 頭と前年を下回る結果となった。

下旬相場は上旬と同様、一気に上物価格が 700 円台に向かう動きを見せた。一向に下げる気配を見せることなく連休の続伸で、30日には中物価格も 600 円を超えた。部分肉相場はウデ・モモ以外のパーツが 1,000 円を超え、スソ物以外にも割高感がでてきた。

豚 日別相場表（5月）



< 6月の豚枝肉相場見通し >

農水省による 6月の全国と畜頭数は、132万 2,000 頭（前年同月比 102.0%）と予測しており、一日当たりの頭数は約 6万 100 頭である。当市場の 6月の集荷予定頭数は 1万 5,000 頭となっており、一日当たりでは約 680 頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による 6月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 6万 5,700t（前年同月比 95.3%）の予測となっている。内訳はチルドが 2万 5,300t（同 99.3%）、フローゼンは 4万 400t（同 93.0%）の予測である。

また 3月における豚肉推定在庫量は、国産品が 1万 5,952t（前年同月比 95.7%）、輸入品は 15万 3,428t（同 94.8%）となり合計 16万 9,380t（同 94.8%）となった。推定出荷量は 15万 129t（前年比 106.6%）で前年を上回った。うち国産品は 8万 464t（同 106.0%）輸入品は 6万 9,665t（同 107.4%）であった。国内生産量は 7万 9,294t（同 106.1%）と引き続き前年を上回った。

国産牛相場が記録的な高値を維持しているため大手も豚肉にシフトする動きが見えるという背景の中、5月の豚枝肉相場は想定外の上昇となった。一方輸入物においては、デンマーク産が産地指定の通関遅れで逼迫している以外、その他の産地はチルド・フローゼンともに低価格帯で、特にベリー・ロイン系は潤沢。また豚肉の代替品であるブロイラーも 5月の輸入量がプラス 30%と急増しており、国内生産も良好な状況。これから夏の高値相場を迎えることとなるが、これら豚肉の代替となりうる材料がいつの時点で市場に出回ることが今後の注目となるであろう。スソ物がタイトな状況を考慮して、6月の平均上物価格は 650 円、中物 610 円前後と予測する。

出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>